



2026年4月24日

第97回メーデー中央大会実行委員会  
実行委員長 芳野友子殿

## 第97回連合中央メーデーに対する意見書

全国コミュニティ・ユニオン連合会 (全国ユニオン)  
会長 山岡直明



「第97回連合中央メーデー大会の開催内容(案)」を拝見し、組織内で議論しました。「労働者の祭典」としてのメーデーにふさわしくない点があると考え、問題提起をさせていただきます。

VII開催内容2の「式典中の禁止行為」として記載された「登壇者への野次・誹謗中傷(プラカード・横断幕等を含む)」については、組織内でも様々な意見がありました。4月16日の中央執行委員会で確認したところ、誹謗・中傷となるプラカードや横断幕は禁止とのことでした。これは、ここ数年の来賓である総理大臣や厚生労働大臣に対する付度が働いているのではないかと思料します。

改めて指摘するまでもありませんが、メーデーは1886年5月1日にアメリカのシカゴで8時間労働の実現を求めて立ち上がった労働者によるストライキがきっかけです。翻って、現在を見ると高市首相は、今通常国会の施政方針演説で「官民連携による投資促進」の項目の中で「裁量労働制の見直し」について言及し「とにかく成長のスイッチを押して、押して、押して、押して、押しまくってまいります。」と発言しています。

また、世界各地で戦争が勃発している中、高市首相がアメリカを訪問してはしゃいでいたり、自民党大会で制服の自衛官が国歌を斉唱するなど、連日、信じがたい出来事が報道されています。

今まさに、働く者の権利や反戦・平和が危機的な状況にあるといえます。しかし「式典中の禁止行為」をみると、来賓とはいえ政府に寄り添うことで、連合が労働組合として重要な取り組みのひとつであるはずのメーデーの理念が失いつつあるのではないかと、結果として働く者の権利や戦争のない平和な社会の実現に向けた取り組みの後退につながるのではないかと、と危惧します。

全国ユニオンは2024年5月16日にも「第95回連合中央メーデーに対する問題提起」をさせていただきました。今回、改めてこのような問題提起をすることになったことは極めて残念です。連合中央メーデーが、真に連合が目指す働くことを軸にする安心社会の実現を訴える場となるよう、連合内でも議論を重ねていただくよう求めます。

以上